

# 西本願寺



発行  
寂静山 大光寺  
住職 藤範雅史

## ご門徒の皆様へ大切なお知らせ

### 人事異動

皆様こんにちは。住職です。

さて、タイトルに驚かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、この度人事異動がありました。

私は平成16年4月1日より、これまで勤めていた宮城県仙台市の「東北教区教務所・本願寺仙台別院」から大阪府堺市にあります「本願寺堺別院」に赴任し、15年間勤めてまいりましたが、この度7月1日より京都にあります本願寺（西本願寺）に異動することとなりました。

新しい勤務地に楽しみ半分不安も半分ですが、お念仏のみ教えが一人でも多くの方に伝わるよう、微力ながら尽くしてまいりたいと思っています。

さて、これからのお参りの事等について少し書かせていただきます。

これまで勤めてまいりま

した「本願寺堺別院」では、大光寺・教楽寺と同じ「お寺」として、月忌参りや葬儀・法事等を中心として仕事をしてきました。ですので、土曜日や日曜日、お盆お彼岸等で休みを取ることが難しく、ご門徒の皆様には特にご法事についてご無理を聞いていただいております。

今回より勤めさせていただきます本願寺は、主に事務の仕事が中心となり、原則的にはカレンダー通りの出勤と休暇になります。ですので、これまでと違い、ご法事等お参りについては比較的土日の休みがとりやすいため、ご門徒の皆様のご要望に応えられることが多いのではないかと考えています。

しかし、片方が立てば片方が立たず・・・葬儀につきましても、当然曜日を選ぶことはできません。

なるべくご門徒の皆様には迷惑をかけない

ように努めてまいりたいと考えていますが、どうしても私が何うことができない場合は、近隣の寺院のご住職にお願いすることも考えています。

ご門徒の皆様には様々な面で支えていただき本当に感謝しています。今後ともご門徒の皆様とともにお念仏繁盛のため歩んでまいりたいと思いますので、何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。





「平日に法事を勤めたら親戚が集まれん！」

確かにその通りです。

「2カ月前のばあさんの法事も一緒にできんとなつたら東京にいる息子が早々何度も帰ってこれん！」

これもその通りです。

お電話でご依頼くださるときにそう教えていただければありがたいです。

多くの方が何も言わずに「誰々の〇回忌と誰々の〇回忌を一緒にお願いします」って仰られます。「コレコレこういう理由で一緒にしたい」と教えていただければ

「何が何でも一緒にダメです」とは言いません。

まあ二つくらいなら可愛いもので、中には誰々の〇回忌と誰々の〇回忌と誰々の〇回忌と・・・って四つも五つも言うてくれる方がいらっしやいます。これらはちよつとなあ、せめて時期をずらして二回か三回に分けてもらえんやろか・・・とは思いません。

**先** 日こういとお電話を

いただきました。大変素晴らしい内容のお電話でしたので参考までにご紹

介いたします。

「実は両親の五十回忌の法事をお願いしたくてお電話をしました。ですが、本来の五十回忌までには十年近く早いのです。しかし私もずいぶん年齢を重ねました。あと十年近くもこの命を重ねることはなかなか難しいと考えています。でも世話になった両親の五十回忌は何としてでも私が中心となつて勤めさせていたきたい。住職さんやつぱりこんな早くに、十年近くも早くに勤めさせていただくというのはいかにでしょうか？」

私の答えは「そのようにお考えでしたら構わないと思いますよ。一緒に勤めさせていただきますよう。でも、十年後、もしその時も元気でおられましたら、その時には正當に五十回忌をもう一度勤めさせていただきますしようね。」とお答えをさせていただきました。

何が何でも早くに法事を勤めてはいけません。一緒にやっつてはいけな言っているのではありません。それぞれに事情つてものがあ

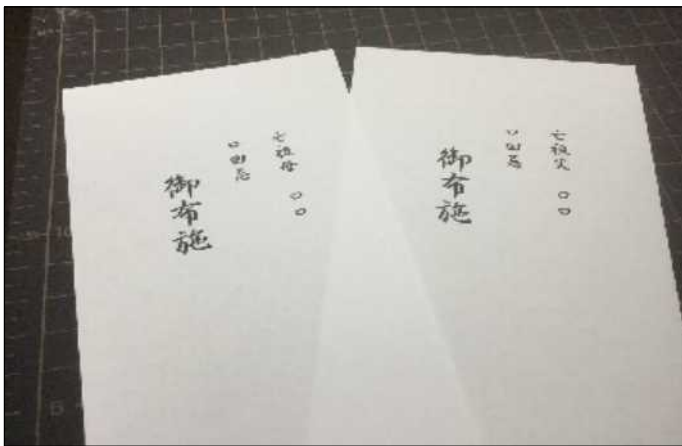
ります。ちゃんと教えてくださいます。ちゃんとしてください。なにも仰られないと”ついでに”感がすごいです。この”ついでに”感私はあまり感心しませんので、それを感じたときは”ついでに”その日その時がよいですよ」とか「法事は分けて勤めた方がいいですよ」って言つてしまいます。命日より早く勤めるのが当たり前ではない。二人三人分をまとめて勤めるのが当たり前ではない。ということを知つていただければ有難く思います。

もう一つ、お布施についても記しておきます。と言つても中身のことでありません。封筒のお話です。

やむを得ず2人分のご法事を同じ日に勤めたとき、お布施の封筒は2つに分けていただくようお願いをさせていただきます。

これは、お寺の会計帳簿に記入するとき、〇月〇日、誰々様の〇回忌 金額云々・・・

と記載するとき、1つの封筒に入っていると帳簿に記載するときに困つてしまうのです。確かにお布施はお預かりしたけれど、いったい誰の法事においくら包んでくださったのだろうか？と考えてしまうのです。「御布施」と書いた封筒の右肩に、亡き誰々の〇回忌と書いていただけると随分助かります。一纏めに記載することはありませんので、どうぞよろしくお願いいたします。



- ・ 正當のご命日に勤めさせていただくのが本来ですが、家族親戚が集まりやすい日を2つか3つ候補日としてご相談いただけると有難いです。
- ・ 2つのご法事を併せて勤めることを前提とせず、特段の事情がある時はその理由とともにご相談ください。
- ・ やむを得ず2つのご法事を同じ日に勤めたときは、封筒はわけていただきますようお願いいたします。



## 東日本大震災特集

## ～住職の見た震災から8年～

一〇一一年三月十一日、

東日本を大震災が襲

いました。私は現在大阪の  
浄土真宗の僧侶を中心に活  
動する「震災支援を続ける  
会」(石崎博叙代表幹事)

で仮設住宅や復興支援住宅  
を中心に炊き出しのボラン  
ティア活動を続けさせてい  
ただいています。震災から

8年が経ち、関西ではもう  
震災による復興が終わった  
かのように当たり前に生活  
を送る日々が続いています

が、実はそうではないんだ  
ということ、私が主に活  
動する岩手県陸前高田市、  
福島県双葉郡檜葉町のこれ

までと、現在を皆様に知っ  
ていただきたく、写真付き  
で紹介させていただきた  
と思います。

ここで紹介する写真は、  
ほとんど私が撮影したもの、  
または震災支援を続ける会  
のメンバーが撮影したもの  
です。



私が震災後初めて東北に  
赴いたのは震災から9カ月  
後の十二月でした。衝撃的  
な風景だったのを今でも鮮  
明に思い出します。この写  
真は海岸から一キロ程内陸  
に入った写真です。歩道に  
船が乗り上げたまま放置さ  
れていました。また、奥の  
家を見ますと1階部分が津  
波が抜けていったのでしょ  
うか、窓が無くなり吹き抜  
けの状態になっていました。

これは宮城県名取市の閑上  
という地区で撮影した写真  
です。  
2枚目の写真は、私の友

人が送ってくれた写真にな  
ります。私は平成十年か十  
一年頃から宮城県仙台市に  
ある本願寺仙台別院に4年  
間勤めていました。沢山の  
友人に出会い、仲良く過ご  
していたことを思い出しま  
す。この写真を提供してく  
ださった友人は、仙台市宮



城野区在住の友人で、震災  
間もなく、宅急便がようや  
く動き出した頃に私に連絡  
をくれました。「何かお手  
伝いできることはある？」  
と聞くと「お菓子があれば」  
と言うのです。聞いてみま  
すと物流が動き出してすぐ  
でしたので、スーパーで買  
い物をするにも買い物個数  
制限がかけられている。1  
人4品か5品くらいまでし  
か買えないと言うのです。

そうすると、毎日の食事を  
購入するだけでいっぱいに  
なり、子供たちにおやつを  
買ってあげることができな  
い。だからお菓子を送って  
くれないか、と。私は快く、  
初めて、お菓子ばかりダン  
ボール2箱分購入して送っ  
たのを思い出しました。

しばらくの間、私も忙し  
さにかけて東北のことを気  
にはしながらも「自分がで  
きることは何だろう。一人  
でできることは何かないの  
だろうか」と考えながらも  
僅かばかりの募金しかでき  
なかつたことに歯痒さを感じ  
ていました。

震災から4年後、ふとし  
たご縁で「震災支援を続け  
る会」の代表幹事と出会い、  
是非参加させていただきた  
い旨を申し入れると快く受  
け入れていただきました。

初めてこの会で活動させて  
いただいたのは、宮城県の  
気仙沼市、次が福島県の会  
津美里にある「檜葉町」の  
仮設住宅でした。福島県双

葉郡檜葉町は、福島第一原  
発との距離わずか20キロ内  
で、原発の影響で、多くの  
町民がこの会津美里に「町  
ごと」非難されていたので  
す。因みに檜葉町と会津美  
里との距離は約100キロです。  
自分の故郷から100キロ離れ  
た場所へ避難する、想像だ  
にできません。



この会津美里でのボラン  
ティア活動は主に年に数回  
の炊き出しと夏に子供たち  
を集めてのサマーキャンプ  
でした。私は日程が合わず  
にサマーキャンプに参加す

ることは1度もかなわなかったのですが、好評で子供たちの笑顔が嬉しかったと聞かれています。



そして震災から4年半経った二〇一五年九月五日、榎葉町に出されていた避難指示が解除されました。でも、原子力災害により大きく失われた安全・安心に対する信頼は、そう簡単に回復できるものではありません。一方、4年以上にわたる避難生活により、町民の健康維持や、地域が築き上げてきた大切な文化や伝統、コミュニティが失われるなど不安と心配の方が大きかったのだからということも容易に想像が付きまします。また、長年住んできた榎葉町の自

宅も4年間誰も住んでいなかったわけですので避難指示が解除された後もこの会津美里の仮設住宅に残って生活をしながら榎葉町の自宅の片づけをしながら数年間生活をされている避難者の方が多くいらつしやいました。

3月11日には仮設住宅にある集会所で追悼法要を勤めさせていただきました。宗教宗派はそれぞれにあるでしょうが、故人を思う気持ちは変わりはありませんので、意義深くそれぞれに思いをもって勤めさせていただいたことでした。

会津美里の仮設住宅での活動は7回忌をお勤めさせ



ていただいた年の3月11日が最後となり、その年の3月31日をもって仮設住宅は閉鎖されました。



その後は活動地点を榎葉町に移し、7月に「榎葉町イベント広場」と銘打って縁日のような催しをしています。焼きそば・たこ焼き・ポップコーン・ドリンクをはじめ、風船遊びやプラバン・スーパースポーツ等、30名近くの仲間とともに「子供たちの笑顔のために」活動をしています。先にも書きましたが、コミュニティが失われていきます。子供たちが榎葉町に帰っても遊べる場所

が多くありません。イベントや行事も少ないのです。それは、避難指示解除後の住民の入居率が、今年になつてやっと50%になったことからわかるようになっていかなか人が戻ってこないからです。



### 今年3月、榎葉町主催

の「東日本大震災津波犠牲者追悼式典」に参列してきました。榎葉町の津波による犠牲者は数名ですが、数ではありません。でも、この町を非難の状況に追いやったのは申すまでもなく原発です。追悼式典では様々な感情が湧いたのは確かですが、津波の犠牲になられた方のご遺族も参列されていまして、榎葉町

も原発だけでは無いんだと改めて考えさせられた日でもありました。

追悼式典からの帰り、仙台空港出発までの飛行機に時間がありましたので、高速道路を走らずに富岡町・双葉町を通る道、国道6号線を走って帰ることにしました。



車のナビゲーションシステムを撮影しました。写真が見にくくて申し訳ないのですが、中央少し下の赤い矢印が私の乗っている車の現在位置、その右上に福島第一原発があります。この場所は車だけが通行を許可されていて、人が歩くことはもちろん二輪車の通行は許可されていません。



# 東日本大震災特集

## ～住職の見た震災から8年～

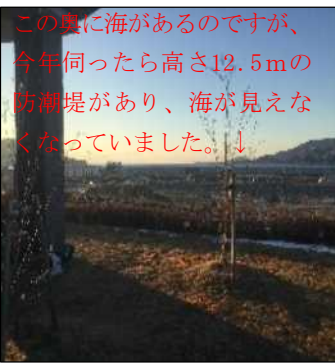
「人が外に出てはいけな場所」なのです。もちろん住むこともできません。家の前にはバリケードが張られています。「帰還困難区域」と書かれた大きな看板もあります。放射線を測定する線量計もあちらこちらにあります。震災から8年経ってまだこんな状況です。自宅に戻れない方はまだまだたくさんいます。



福島での活動はまだ続きません。続けたいです。ご門徒の皆様も少し気にかけていただけると嬉しいです。

もう1か所震災支援を続ける会が主に活動している場所があります。岩手県陸前高田市です。ここは津波の被害が大きかった場所で、死者・行方不明者合わせて一七〇〇人以上の方が犠牲にられました。そのうち二〇〇人以上の方が今も行方不明です。

津波被害によりほぼ町ごと消滅したこの市では、市全体をかさ上げ（土地の標高を上げる）工事がされています。これは8年そこらで完了するものではなく、まだまだ時間がかかると思っています。ですので、仮設住宅にお住まいの方、復興支援住宅にお住いの方等様々の方がおられます。



この奥に海があるのですが、今年伺ったら高さ12.5mの防潮堤があり、海が見えなくなっていました。↓

ここでは近年、陸前高田市の女性協の皆様がたこ焼きのお手伝いをしてくださいます。何度も何度もお伺



いするうちに本当に上手にたこ焼きが焼けるようになって、笑顔も増えてきたように感じます。でも、この方たちも被災者です。大切な人を津波で亡くし、言葉には言い表せられないほどの恐怖と深い悲しみの真つただ中におられます。いつも仮設住宅で支援活動をさせていただいていたのですが、今年初めて災害公営住宅にお邪魔させていただきました。本当に立派な建物



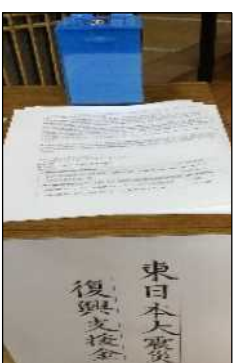
震災支援を続ける会のメンバー・陸前高田女性協の皆様と記念撮影

（マンションをイメージしてください）ですが、外観を見るのではなく、これだけたくさんの、これ以上の方々が生まれ育った自宅を津波にさらわれたかと思うと言葉がありません。最後のお一人が仮設住宅を出るまで、最後のお一人がご自宅を再建し、生活を取り戻すまで、身体の続く限り支援活動を続けさせていただければと思います。大光寺では東日本大震災復興支援金の募金箱を設置しています。直接現地に向くことができなくても私たちにできる活動があります。ご門

被災状況	岩手	宮城	福島
避難者(県内)	3666人	2083人	9322人
(県外)	1028人	4196人	3,2631人
死者	4674人	9542人	1614人
行方不明者	1114人	1219人	196人
震災関連死	467人	928人	2270人

避難者は2月7日現在、復興作業のため、自衛隊避難所には世帯からの流入者を含む。死者、行方不明者は3月8日現在、警察庁まとめ。震災関連死は2月末現在、福島は3月6日現在、各県まとめ

徒の皆様も様々なカタチで支援活動に携わっていただいていることかと存じます。もし、最初の私と同じように「自分にできることはなんでしょうか？自分も何かのお役に立てないだろうか」とお悩みの方がいらつしやれば、支援金のご協力、現地に行ってみたいということであれば住職にご相談ください。



ここで先月もご紹介いたしました私の友人である、北海道の名和先生から仏さまのお話を寄稿いただきました。前回は写真がずいぶん横に広くなりましたので、今回は正しいサイズの写真で！



続・仏様と出遇うということ

「仏様に出遇う」ということは、眼で見えてとらえようとする「眼見(げんけん)」ではなく、お経の言葉に触れていくこと、「聞見(もんけん)」によって出遇っていくものだということが前号でお伝えしました。

「言葉」は眼には見えませんが、かけられた言葉に生きる勇気をもたらうことができますし、反対に絶望の淵に立たされることもありま

どのような言葉に出遇うかによって、その人生が大きく変わってくるのだと思います。

私の母方の祖母

父母は、長崎県に住んでおりまして。一昨年前に二人とも亡くなりましたが、遠く

北海道のお寺に嫁いだ娘が産んだ子ということもあり、大変かわいがってくれました。九州と北海道は遠かった。まだ子どもだった頃、九州に遊びに行ったときには、普段なかなか会えない私に向かって、祖母が「あんたが生まれたときに一番に抱っこしたのは私なのよ」と嬉しそうな顔をして何度も言ってくれていたことを今でもよく覚えております。

そんな祖母も晩年は認知症になり、介護施設でお世話になる日々を送りました。私が最後に二人に会ったのは平成26年、亡くなる3年前でした。施設内の部屋を訪ね、齢を重ねた二人



の様子を見てみると、体は衰え、同じ事を繰り返す口にするその姿に「これで会うのは最後かも」と感じざるを得ませんでした。

「ばあちゃん、僕が生まれたときのこと今でも覚えてるかい？」別れ際にどうしても聞きたい衝動にかられ私は尋ねました。すると、それまで空をぼんやり眺めていたその眼をじっと私に向け、「あんたが生まれた日のことだもの、忘れるわけがないでしょう」と口にしたその言葉が深く胸に残りました。

昔校長先生を務めていた祖父にも尋ねたかった。僧侶ということの人前で話す

ことが多い私は、悩むことが多々あり、話すときのアドバイスを聞きたかったのです。祖父はこたえてくれました。「お話しをするときは、わかりやすく伝えること、誠意を持ってその場に臨むこと、自分がよく理解したことを話すこと」と。そして「康成くん、北海道で精一杯頑張るんだよ」と声をかけてくれたのが最後となりました。

慈愛に満ちた祖母の言葉からは、この世に生まれてくることの喜びを教えられました。祖父の豊富な経験を通した言葉は、私に困難を超えていく道を示してくれました。今はもう姿を眼にすることが出来なくとも、この先も私を支え、励まし、育ててくれる確かな「出遇い」がそこにあります。

「言葉」にはそのような力があるのだと実感しております。

親鸞聖人は、「仏様に出遇う」とは、眼で見えてとらえていこうとする



のではなく、その「言葉」に触れていくことなのだ、とお示しくいただきました。「心豊かな人生を歩んで欲しい」という阿弥陀様のお心は、「南無阿弥陀仏」という六字の言葉(〓み名)に込められています。苦難多き人生を、お念仏の教えとともに力強く歩まれた親鸞聖人が出遇った言葉を尋ねていくこと(〓お聴聞)以外に、「仏様に出遇う」道はありません。次号からは具体的に仏様のお言葉に触れさせていただきますように。



# 初参式ってご存じですか？

**赤** ちゃんが仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて生きていけるよう、人生の出發にあたり、その誕生を仏さまにご報告する式です。

浄土真宗の門信徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが初めてお寺に参りする初参式は、子にとってはじめての仏縁ですが、同時に親にとっても、親として生きる出発点であり、子によつていただいた尊い仏縁でもあります。

恵まれた新しいいのちを阿弥陀如来さまの御前にて、ご家族、またご縁ある方々そろつてお祝いいたしましょう。

出産後100日または、その後の適当な時期をお選びいただき、お寺までご相談ください。

## ●初参式次第

1. 開式のことば
2. 念珠・式章授与
3. お勤め
4. 「らいはいのうた」
5. 消息拝読
6. 「初参式についての消息」

7. お祝いのことば
  8. 記念品贈呈
  9. 閉式のことば
  10. 記念写真
- ★所要時間は30分程度です

●初参式の記念に初参式を受式されたお子さまに、記念式章、お念珠、記念品をお渡しいたします。



## 護持費の納入をお願いします

毎年すべてのご門徒様に護持費・衣料の納入をお願いしています。お納めいただきました護持費は本堂をはじめとする諸堂宇の維持管理や、仏さまへの御仏飯・お花・お線香等のお供えに充てさせていただきます。何かと厳しい折大変恐縮ですが、ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## お願い

ご法事等、お参りのお電話をいただく際、日程に比較的余裕をもってご連絡くださいますようお願いいたします。少なくとも希望日の1カ月前を目途に、候補日を2つか3ついただくと大変助かります。職場での勤務調整をしなければいけませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

住職直通の携帯電話はコチラ⇒ 090-7488-5765

## ご祥月法要のお参りについて

住職を継職してから、月忌参り（常逮夜）を休止しております。

祥月命日（故人の正当のご命日）はお参りさせていただきますので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。

**大光寺 0736-42-3055**

